泣き虫ロク

神崎　優太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
泣き虫ロク

【Ｎコード】
Ｎ２１８８Ｈ

【作者名】
神崎　優太

【あらすじ】
中古車センターに売られてしまった車のロク。自分がなぜ売られてしまったのか、理由がわからず落ち込みます。やがて、新しいご主人様がロクの試乗にやってきますが……。

そこは夜の中古車センター。
誰もいないはずのその場所から、何やら話し声が聞こえます。
「今日来た子、どうしてる？」
「もう、朝からずっと泣きっぱなしなのよ……」
シクシク…グッスン…シクシク…グッスン。
耳をすますと確かにどこからか、泣き声が聞こえます。泣いているのは、なんと小型車の男の子でした。心配している二人は、トラックのおじさんと軽自動車のお姉さん。
「おい、泣き虫坊主！　男の子がいつまでもくよくよしているもんじゃないぞ！」
ついには、トラックのおじさんも怒り初めてしまいました。
「うえーん、うえーん！」
男の子は、ますます大きな声で泣きだします。
「まぁまぁ、そんなに強く言うもんじゃないわ。いったい、何があったというの？」
軽自動車のお姉さんがやさしくそう聞くと、男の子は鼻をすすりながら話しはじめました。
「だって、僕はまだ買われてから三ヶ月しか乗ってもらってないんだ……。それなのに今日、いきなりここへ連れて来られて……」
「あらら、それはかわいそう」
お姉さんは、男の子を慰めます。
「毎日、乗ってくれて……毎週、洗車してくれて、名前だってつけてくれたんだよ、ロクって……」
「そうか、そいつぁ悪かったな坊主。だけどな、人間なんてそんなもんさ。新しい車を買えば古いのは、ぽいっだ。俺達なんかまだいいほうさ。俺の友達なんかスクラップだぜ」
そういって、トラックのおじさんは苦しそうに舌を出してみせま

した。
「うえーん、うぇうえーん！！」
それを見たロクは、もう涙が止まりません。
「もう、おどかさないの、おじさん！」
お姉さんに怒られて、おじさんは肩をすくめます。
「でも、やっぱり仕方のないことなのよ、ロク。私達はここで、新しいご主人様が買ってくれるのを待つしかないの」
「グスッ……新しいご主人様なんて……いらない」
ロクはそういって、だだをこねます。
「困った子ねぇ……でも、いつか分かる日がくるわ……」

それから何日かたった日曜日。
朝からたくさんの人が中古車センターを訪れています。そう、今日は、ご主人様が決まるかもしれない大事な日です。
それでもロクは相変わらず、元気がありませんでした。
「この車、試乗させてもらってもいいかな？」
お客さんの一人が、早速ロクの試乗を店員さんにお願いしています。
「はい、ただいま！」
店員さんが、元気よくそう答え、ロクのキーを取り出しました。
キュルルルル……キュルルルル……。
しかし、ロクのエンジンは、中々かかりません。
何度、試しても結果は変わりませんでした。
「うーん、こいつはエンジンのかかりが悪いんですよね……」
店員さんも困り顔。
お客さんは、あきらめて他の車のところへ行ってしまいました。
「……おい、だめじゃないかロク！」
トラックのおじさんが、ひそひそ声でロクをしかります。
「だって……」
ロクはしかられてしょんぼり。

でも、その時です。
「パパ！見て、ロクちゃんだよ！」
その声にロクの目がぱっと輝きます。
「あぁほんとだ、元気にしてるみたいだねぇ」
それは、ロクの前のご主人様とその娘のミクちゃんでした。
「急な引越しでお前を手放さなくちゃならなくなったこと、一度ちゃんと謝っておきたくて」
ミクちゃんのパパはとても残念そうに、ロクの体をなでます。
「ミクもちゃんとお別れを言いなさい。」
「ロクちゃん、ありがとう。ミクはロクちゃんがだいすきだったよ」

ミクちゃんとパパが帰った後で、ロクはまた泣きだしました。
「うえーん、うえーん！」
「おい、坊主がまた泣いてるよ。全く困った泣き虫だなぁ。」
トラックのおじさんは、困り果てた顔でそういいます。
「違うんだ。悲しいんじゃないよ。うれしいんだ。僕はいらなくなったんじゃなかったんだよ！」
「そう、いいご主人様に出会えてよかったわね」
うん、うん、と何度もうなずくロク。
「さぁ、もう泣くのはやめて次のご主人様を笑顔で迎えましょう！」
「そうだぞ、坊主。泣いておってはもらい手がつかん」
「えへへ。そうだよね。ありがとう、おじさん、おねえさん。」
ロクは涙をふいて、笑顔でお客さん達を出迎えます。胸の中は期待と希望でいっぱいでした。もちろん、ほんのちょっぴりだけど、不安もあります。それでも、もう泣き虫とはさよならです。
「新しいご主人様は、いったいどんな人だろう？」
ロクの新しい人生が、今はじまります。

（後書き）

ロクのモデルはプジョー２０６です。安くても外車だぞ！というプライドもあったのかもしれません（笑）。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2188h/

泣き虫ロク

2011年1月3日19時56分発行